

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、平成15年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 対象作物 コチョウラン（別名：ファレノプシス）
- 2 病害虫名 ランヒメハダニ(*Tenuipalpus pacificus* Baker)
- 3 発生地域 福岡市早良区
- 4 特殊報の内容
 - (1) 初発生確認の経緯
 - ア 平成15年3月下旬に、葉の表面に細かい凸凹を生じ、陥没部分が白化した症状を示すコチョウランの診断依頼が持ち込まれた（写真）。
 - イ 実体顕微鏡で多数のハダニの寄生が確認された（写真）。
 - ウ これらのハダニの成幼虫を採取して健全なコチョウランの葉に接種したところ、同様の被害が再現された（写真）。
 - エ またこのハダニの同定を茨城大学の後藤哲雄氏に依頼した結果、ランヒメハダニ(*Tenuipalpus pacificus* Baker)であることが判明した。
 - オ 本種によるラン科植物への被害は平成3年に三重県の洋ランで初めて確認され、その後北海道でも発生しているが、本県で確認されたのはこれが初めてである。
 - (2) 被害状況

被害は地上部全体に及ぶが、主な被害場所は葉身と葉鞘である。吸汁により葉面が陥没し凹凸になる。陥没部は主に白化するが、まれに狭い範囲で褐変することがある。寄生は葉の両面で認められ、密度が高くなると葉先や葉身の基部付近が完全に白化し、最終的には葉身部が黄化し落葉する（写真）。
 - (3) 形態・生態等
 - ア 体長は雌成虫が約0.34mm、雄成虫が約0.30mmで、いずれも赤橙色である（写真）。

イ ラン科植物の葉で世代を繰り返し、年間発生回数は4～6回である。

5 防除上注意すべき事項

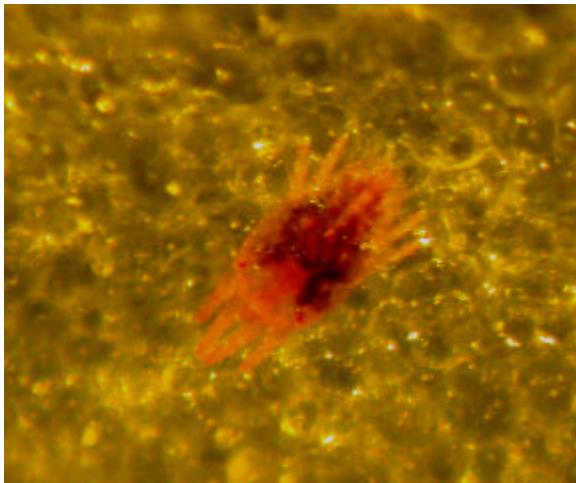
- (1) 発生初期の防除が重要である。現在、花き類においてハダニ類に登録のある薬剤としては、マラソン乳剤、ケルセン乳剤、ニッソラン水和剤、ロディー乳剤、ピラニカ水和剤、粘着くん等がある。
- (2) 今のところ本県での発生地域は限られているが、今後、拡大する可能性があり注意が必要である。



コチョウランの被害（写真）



重症株（写真）



ランヒメハダニの雌成虫
（写真）



ランヒメハダニを接種して
再現された被害（写真）